

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてみてください。



## はしもと里山保全アクションチーム

佐藤 俊さん

私は、「地球村」の創設時に事務局メンバーとして、ネットワークづくりや各地で講演会活動をしていました。当時、たまたまある会社のプロジェクトに関わり、和歌山県橋本市で、化学肥料も農薬もまったく使わない農業の実験を始めることになったのが「農業」に関わったきっかけです。現在は、「はしもと里山保全アクションチーム」の事務局長として、毎日のように農作業に関わっています。

## 日本の原風景を守るプロジェクト

橋本市は、大阪府と和歌山県の接点にあたるところで、山間の溪流ぞいに見事な棚田が広がっています。この地域は、先人たちが高野山の所領としての重い年貢を負担するために、この谷間に延々と水路を掘り進め、微妙な斜面の傾斜と起伏に合わせて田んぼを作りました。数百年にわたって続けられた村人の「生きるための」営みが、棚田・里山として維持されてきたといえます。

ところが今、農業は後継者難、高齢化、どこでも見受けられる耕作放棄地・遊休地の拡大が止まりません。いったん「放棄」されると、雑草が背丈以

上にはびこり、イノシシなどの獣が侵入し始め、石組みが崩れ、水路が埋まり、美しい野の花も姿を消してしまいます。次世代に豊かな自然と里山の「風景」を受け渡すために、私たちは、10年以上放置された「耕作放棄地」の管理を引き受け、会員約80名と一般市民の参加により「再生活動」を行っています。藪になった棚田約40枚、1.5haを切り開き草刈りをし、耕耘機を入れ、水を入れては耕し、畦の石積みを補修し、水田を復活させました。また、景観作物として、そば(紅そば)を栽培したり、菜の花、レンゲ、ひまわりの種を撒き、手のかからないイモ類を栽培しています。また田んぼには古代米



(黒米、赤米、緑米、香り米など)を栽培しており、メンバーはそれぞれ思い思い

## プロジェクトのコンセプト

にいろんな作付けをして、季節ごとに畑作と農作業を楽しんでいます。

私たちは、素人の集団ですが、楽しく農作業を体験し、米を作り、野菜を育て、収穫を喜び合い、人生を語り合います。孫を連れて参加する会員も多く、大人たちは汗を流して農作業をし、子供たちは歓声を上げて小川や野原を走り回ります。地元の方たちも、田んぼや畑の作り方や作物の栽培技術の指導にやってきてくれます。里山保全プロジェクトの展開によって確実に田園や里山が再生・復活するなかで、多くの人の輪が広がっています。

昨年度からは和歌山県の「モデル事業」と認定され、県の職員も共に参加して保全活動や農作業を楽しんでいます。田植えや稲刈りなどのイベント



は親子連れの参加でにぎわい、地元公民館主催の子供たちの体験プログラム

や学校教育の一環としての自然体験プログラムの参加も受け入れています。いろいろなケースがありますが、私たちは、生きるための「農業」をやるのではなく、素人が農作業を楽しむために集まっています。もちろん農薬や化学肥料を使う必要もなく、少しだけ「雑草」に遠慮してもらって、自然の多様さ、奥深さ、大きさそのものを楽しんでいるといったところです。

営々と続けられてきた農村の「生活」によって形づくられてきた美しい景観、水や空気の美しい環境を次の世代に受け渡すことは、農業者のみの責任ではありません。農村の美しい景観に心いやされ、湿潤で温和な気候の中で暮らすためには、市民にも応分の責任を負担する必要があります。そして、経済の機軸が変わらない限り、農業後継者が育つ保証もありません。

地元の後継者が農業を始めることができるようになるまで、市民の力を集めて里山を保全しようというのが私たちの会の方針です。メンバーが入れ替わっても「会活動」は継続できます。しかし、里山保全プロジェクトが真の意味で持続的で効果的に行われるためには、さらに確立した仕組みが不可欠です。地元が立ち上がって地域との共同事業として行うことや、自治体が景観保全地域の指定などを通して支援や協働をすることも必要だと考えています。

## 今後のビジョン

当地は、いわゆる中山間地で、農道も細く大きな機械は入りません。その代わりに、素晴らしい景観と豊かな自然が広がり、小川が清らかに流れています。この地域が「農業」と「景観」を基盤として活性化すればと、各署に働きかけ、今年度は農水省の「農村景観・自然環境保全再生パイロット事業」地域の採択を受けることができました。また、地元の名勝・旧跡を訪ねつつ、棚田での農作業も体験してもらおうという企画が和歌山県の環境事業として採択され『人と自然の共生「里山体験」コース』として認定されました。ツアーガイドの資格もいただきました。

季節ごとに違った美しさを見せてくれる里山で遊び、呼吸し、水と土に触れることは、人の根源的な感覚を思い起こしてくれます。里山の豊かな生物多様性に触れ、作物を育て収穫する体験は、現代人が失いかけている大切なものに気づかせてくれるかもしれません。加速する地球温暖化を止めることができるのは、科学技術や法規制だけでは無理です。現代人の心の中に「欠乏」しているものが



「農」の中にあります。子供たちに美しい地球を受け渡すため、人類がソフトランディングすべきステージを維持保全しようと思っています。

### はしもと里山保全アクションチーム

<http://homepage1.nifty.com/actsatoyama/>

事務局長 佐藤 俊

Tel 0736(42)4102 Fax 0736(33)1825

このコーナ - に登場していただける方を募集しています。自薦他薦を問いません。メールでご連絡ください。  
『地球村』事務局 mail: tusin@chikyumura.org